

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	宗教学					授業形態
英 訳	Religion					単独
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の目的】 宗教の要件や類型といった基礎的な知識をえた上で、①諸宗教の歴史・教義・儀式などの諸相をまなび、②宗教学の立場から現代社会の諸問題をかんがえる視点や方法を獲得し、③幅ひろい知識や教養をとまなうコミュニケーション能力を身につける契機とする。						
【授業の到達目標】 宗教に関する概念・事項・事象について、基礎的な知識にもとづく正確な解説文が書ける。 ※作成文章の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう。 ※科目「宗教学」簡易ルーブリック（ http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-religion ）参照						
【授業の概要】 第1回は、授業概要のガイダンスをおこなったのち、宗教の要件・類型といった基礎的な知識をえる。第2～11回は、民族宗教・世界宗教・新宗教といった世界の諸宗教の諸相についてまなぶ。第12～14回は、教典・儀礼・芸術・象徴・消費・メディアといったキーワードのもとにさまざまな宗教現象をとりあげ、宗教と人間または宗教と社会のかかわりについて考察する。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第01回 講義概要ガイダンス / 宗教の要件と類型 第02回 民族宗教① ヒンドゥー 第03回 民族宗教② ユダヤ教 第04回 民族宗教③ 儒教 第05回 民族宗教④ 神道 第06回 世界宗教① キリスト教 前期 第07回 世界宗教② キリスト教 後期 第08回 世界宗教③ イスラーム 第09回 世界宗教④ 仏教 前期 第10回 世界宗教⑤ 仏教 後期 第11回 新宗教・ニューエイジ 第12回 宗教現象① 経典と儀礼 第13回 宗教現象② 芸術と象徴 第14回 宗教現象③ 消費とメディア 第15回 期末まとめ・総合質問受付						
【テキスト】 指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
【参考書・参考資料等】 講義中に必要に応じて示す。						
【成績評価の方法等】 毎回の提出物の内容（100％）によって評価する。上記【授業の到達目標】参照。						
【履修要件等】						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	中島 洋治			
授業科目	音楽の世界					授業形態
英 訳	Music History					単独
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 各時代の音楽様式（響きや構造の特徴）を把握しその音楽を聴いて、それがいつ頃の音楽であるか判断できることを目的とする。また音楽の文化的・歴史的な背景を理解し、その時代が音楽に何を求め、どのような場で演奏され聴かれたかを考えることも目的の一つである。						
【授業の到達目標】 音楽史の知識はたんなる言葉の暗記に終わるのではなく、できるだけ多くの作品を時代別に積極的に聴くことで各自の知識をより興行きのあるものにし、自分なりの意見を持つことができるようにすることが到達目標である。						
【授業の概要】 第1回に授業内容についてガイダンスをおこなったうえで、第2回～第14回において、近現代の音楽について、文化的・歴史的な背景とともに取りあげていく。第15回にまとめと補足をおこなう。						
【準備学習(予習・復習)】 授業中に配布したプリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第01回 「音楽の世界」の授業内容について説明 400年の歴史を持つ最高の「娯楽」オペラの鑑賞 第02回 近代音楽の成立 ～J. S. Bach と G. F. Handel～ 二人の生涯と作品について解説及び鑑賞 第03回 古典派の音楽Ⅰ ～J. F. Haydn と W. A. Mozart～ 二人の生涯と作品について解説及び鑑賞 第04回 古典派の音楽Ⅱ Mozart を題材にした「アマデウス」のDVD鑑賞 第05回 古典派の音楽Ⅲ 「アマデウス」のDVD鑑賞 第06回 古典派から前期ロマン派へ 「楽聖」と呼ばれた L. V. Beethoven の生涯について 第07回 前期ロマン派Ⅰ フランス革命が芸術にもたらしたものは？ ドイツリートについて 第08回 盛期ロマン派Ⅱ フランス革命後の芸術（1800年以降に活躍した音楽家の解説と鑑賞） 第09回 盛期ロマン派Ⅲ イタリア歌劇・フランス歌劇について（G. Verdi G. Puccini G. Bizet 等） 第10回 後期ロマン派Ⅳ ドイツ歌劇について（W. R. Wagner） 第11回 国民楽派の音楽 ロシア・東欧・北欧を中心とした国民主義音楽の解説と鑑賞 第12回 印象主義の音楽 C. Debussy と M. J. Ravel について解説及び鑑賞 第13回 近代の音楽 A. Schonberg と I. Stravinsky について解説及び鑑賞 第14回 20世紀の音楽 前衛的音楽（偶然音楽・具体音楽・電子音楽等）について解説及び鑑賞 第15回 「ファンタジア2000」のDVD鑑賞（コンピュータの発達によるアニメーションと音楽）、まとめ及び補足						
【テキスト】 私が作成したプリント資料を毎時間配布（No.1～No.15まで）一回のプリントは約5～8頁						
【参考書・参考資料等】						
【成績評価の方法等】 授業への取り組みによる平常点（50%）・鑑賞後の感想レポート（20%）・課題提出（30%）						
【履修要件等】						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	長谷川 貴法、武良 徹文、白雲 央樹			
授業科目	スポーツA					授業形態
英 訳	Sports A					複数 クラス分け
配当年次	1 年次	前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 個々のスポーツの理論や戦術・基本的な技術を習得することによって、生涯にわたって楽しめるスポーツ技術を獲得することを目的とする。						
【授業の到達目標】 個々のスポーツの技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【授業の概要】 個々のスポーツの競技特性、及びルールを理解し、基礎的な個人的・集団的技能を習得する。更にそれらを活かしたゲーム展開の方法を実習する						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第01回 ガイダンス 第02回 基礎体力トレーニング 第03回 バスケットボール：基本技術（ハンドリング、パス、ドリブル、シュート） 第04回 バスケットボール：個人技術（1対1の攻撃と防御） 第05回 バスケットボール：集団戦術（2対2、3対3での攻撃） 第06回 バスケットボール：ルール・戦術 第07回 バスケットボール：ゲーム運営1 第08回 バスケットボール：ゲーム運営2 第09回 ミニテニス：基本技術（フォアハンド、バックハンドストローク） 第10回 ミニテニス：基本技術（サーブ、スマッシュ、ボレー） 第11回 ミニテニス：ルールの確認とシングルスゲーム1 第12回 ミニテニス：シングルスゲーム2 第13回 ミニテニス：ダブルスゲーム1 第14回 ミニテニス：ダブルスゲーム2 第15回 まとめ						
【テキスト】						
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価の方法等】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【履修要件等】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	長谷川 貴法、武良 徹文、白雲 央樹			
授業科目	スポーツB					授業形態
英 訳	Sports B					複数 クラス分け
配当年次	1 年次	後期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 個々のスポーツの理論や戦術・基本的な技術を習得することによって、生涯にわたって楽しめるスポーツ技術を獲得することを目的とする。						
【授業の到達目標】 個々のスポーツの技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【授業の概要】 個々のスポーツの競技特性、及びルールを理解し、基礎的な個人的・集団的技能を習得する。更にそれらを活かしたゲーム展開の方法を実習する						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第01回 ガイダンス 第02回 基礎体力トレーニング 第03回 サッカー：個人技術の習得（キック・トラップ・ドリブル） 第04回 サッカー：個人技術の習得（パス・シュート） 第05回 サッカー：集団技術の習得（ボール回し・センタリング） 第06回 サッカー：集団技術の習得（ポジションとその役割） 第07回 サッカー：ゲーム運営1 第08回 サッカー：ゲーム運営2 第09回 バドミントン：ルールの理論 第10回 バドミントン：個人技術の習得（ショット・ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ） 第11回 バドミントン：個人技術の習得（ラリーの継続） 第12回 バドミントン：シングルスゲーム1 第13回 バドミントン：シングルスゲーム2 第14回 バドミントン：ダブルスゲーム1 第15回 まとめ						
【テキスト】						
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価の方法等】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する						
【履修要件等】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	アジアの思想と文化					授業形態
英 訳	Asian thought and culture					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】						
①アジアの伝統的な思想・文化に関するさまざまな概念・事項・事象をまなび、②多面的な現代文化・世界文化を理解するための視点を獲得し、③幅ひろい知識や教養をともなうコミュニケーション能力を身につける契機とする。						
【授業の到達目標】						
アジアの思想・文化に関する概念・事項・事象について、基礎的な知識にもとづく正確な解説文が書ける。 ※作成文章の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう。 ※科目「アジアの思想と文化」簡易ルーブリック（ http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-asian ）参照						
【授業の概要】						
第1回で授業概要のガイダンスをおこなったのち、東洋文化論の基本的視座を確認する。そして第2回以降に、アジアの世界観・人間観・宗教論・政治論について、具体的な問題を取りあげていく。西洋との対比や、日本との関わりなどにも留意しながら、おもに中国の伝統的思想・文化について考察する。						
【準備学習(予習・復習)】						
毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
【授業計画】						
第01回 講義概要ガイダンス / 東洋文化論の視座						
第02回 世界観① 天と道と気						
第03回 世界観② 無為と自然						
第04回 世界観③ 宇宙論						
第05回 人間観① 天性と天命						
第06回 人間観② 仁義と忠孝						
第07回 人間観③ 身体論						
第08回 宗教論① 儒教宗教説						
第09回 宗教論② 仏教と道教						
第10回 宗教論③ 鬼神論						
第11回 政治論① 災異と革命						
第12回 政治論② 礼法と公私						
第13回 政治論③ 兵法論						
第14回 東西比較文化論						
第15回 期末まとめ・総合質問受付						
【テキスト】						
指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
【参考書・参考資料等】						
講義中に必要に応じて示す。						
【成績評価の方法等】						
毎回の提出物（100％）によって評価する。上記【授業の到達目標】参照。						
【履修要件等】						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	英米の文学と歴史					授業形態
英 訳	English / American Literature and History					単独
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の目的】 英米文学の作品を通して、英米の歴史を再認識し、各時代の社会背景、文化、及び人々の生活や物に対する考え方を学習する。						
【授業の到達目標】 英米文学の作家や作品の時代背景が、理解できるようになること。						
【授業の概要】 大学生としての教養と英語の読解力を高めるために、英文学を通してそれぞれの時代背景を学習する。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：分からない単語は辞書で調べて、小説を読んでおくこと。 復習：授業内容が理解できているか、確認すること。						
【授業計画】 第01回 授業の進め方の説明とグループ分けについて 第02回 アメリカ文学における歴史的な背景について 第03回 Mark Twain, Ernest Hemingwayなどの作家について 第04回 短編小説 Cat in the Rainの紹介と作品の時代背景について 第05回 Cat in the Rainを精読する 第06回 Cat in the Rainを精読する 第07回 作品について受講者全員が感想を発表する。レポートの提出。 第08回 イギリス文学における歴史的な背景について 第09回 William Shakespeare, Katherine Mansfieldなどの作家について 第10回 短編小説 The Canaryの紹介と作品の時代背景について 第11回 The Canary 精読する 第12回 The Canary 精読する F. Scott Fitzgeraldと作品の紹介について 第13回 The Canary 精読する作品の講読と時代背景について 第14回 作品について受講者全員が感想を発表する。レポートの提出。 第15回 英米文学と歴史についてのまとめ 期末試験						
【テキスト】 プリント教材						
【参考書・参考資料等】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価の方法等】 課題（レポートを含む）：30%、 授業への取り組み：20%、 期末テスト：50%						
【履修要件等】 英文を精読するので、基本的な文法項目を理解していること。						